

学 会 記 事

§ 平成 26 年第 1 回日本核医学会理事会 議事録

日 時：平成 26 年 2 月 24 日（月）
12 時 00 分～16 時 30 分

場 所：日本アイソトープ協会 第 3 会議室

出席者

理事長：井上登美夫

理 事：飯田秀博，石井一成，伊藤健吾，
内山眞幸，絹谷清剛，汲田伸一郎，
小泉 潔，佐賀恒夫，阪原晴海，
佐々木雅之，千田道雄，玉木長良，
近森大志郎，外山 宏，中川原讓二，
橋本禎介，畑澤 順，藤井博史，
細野 眞，間賀田泰寛，松田博史，
望月輝一，渡邊 浩

監 事：戸川貴史

書 記：中本裕士

事務局：神田正子

欠席者

監 事：田代 学

議 題

I. 審議事項

1. 留学帰国後の研究者奨励計画

(1) (玉木長良理事)

留学を終え、帰国後に活躍した研究者に対するリターナー奨励賞の提案がなされた。特に異存は出なかった。

2. 理事・監事選挙の被選挙権資格

(2) (小泉潔理事)

一般社団法人となって理事の被選挙権は 63 歳未満だが、任期が 2 年となると最高齢者での任期

終了時年齢が 64 歳または 65 歳となる。中間法人以前と同じ条件にするために理事および監事の被選挙権の年齢を「満 65 歳未満」に上げてはどうか。選挙に関することなので、本理事会では決定せず、総会で問題提起することにした。

3. 日本核医学会認定看護師制度の創設

(3) (望月輝一理事)

看護協会との連携が必要ではないかとの意見あり。また会費をどうするか、についても検討が必要と考えられ、審議を継続することになった。

4. 「医療機器としての単独ソフトウェア」の開発推進に向けた取り組みの提案

(4) (飯田秀博理事)

委員会を立ち上げて詳細を検討する。訴訟における資料となる可能性も念頭に議論を重ねる必要がある。次回の理事会までに必要な人選を目指す。

5. ワーキンググループ規約改定案・評価方法

(5) (松田博史理事)

ワーキンググループの課題は単一施設でなされるものではなく、複数施設のメンバーで行われることが望ましいことを規約に明記する。またワーキンググループの活動に対して年に 1 回評価を行う。評価者は基本的には総会の WG 報告を聞いて判断するが、聞かなくても報告書類による評価が可能である。

6. インド核医学会との交流

(6) (小須田茂先生)

日本からどれくらいの学会員がインドに行きたいと考えるか不明であるとともに、インド核医学会員が来日することも現実としては困難と考えられている。インドを特別扱いするわけにはいかず、韓国との交流と同様のスタイルでどうか。

7. PET 核医学委員会委員の増員

(7) (細野眞理事)

現行の規約では委員は15人までと定められている。増員分を委員ではなく担当理事としてカウントする方法もあるが、規約によれば委員の数は理事会で決めることもできるとされている。PET核医学委員会の委員は19人と増員することを提案、承認された。

8. 小児 RI 投与に関連する実態調査

(大野和子先生)

小児に限らず、成人の RI 投与に関しても調査すべきか、「キューリーメーターがあるか」などはすでにアイソトープ協会に以前のデータがあるはず。実際の投与量の調査については、真の数値をデータとして収集することは、現実的には難しいと思われる。

9. その他

新専門医制度について、核医学の専門医がどのような形態となるかは現時点で全くわかっていない。技術認定の一つとなる可能性も考えられる。前日(2014/2/24)に関係者による臨時の意見交換会が開催された。これまでの専門医の認定機構と新しい日本専門医制評価・認定機構が2つ存在することはみとめられないが、新しい機構の発足までもう少し議論を重ねるべく1年待てないか、構成メンバーに最低でも基本領域の学会から一人ずつ出せないかなどの意見があったと報告された。

II. 報告事項

以下に沿って各理事より報告がなされた。

1. 第54回学術総会準備状況報告

(8) (畑澤順会長)

2. 第55回学術総会準備状況報告

(小泉潔次期会長)

3. 第56回学術総会準備状況報告

(伊藤健吾次々期会長)

第56回学術総会が、2016年11月3-5日名古屋国際会議場で開催予定と報告された。

4. 第14回春季大会準備状況報告

(9) (井上登美夫大会長)

5. 会計報告 (10) (阪原晴海理事)

12月の支出の部、核医学会賞等授賞費が“-111,675円”とマイナスになっている。これは久田賞の副賞15万円を外国人受賞者に送金したが、口座番号の不備による返金となったためと報告された。

6. 幹事会報告 (中本裕士副幹事長)

7. 委員会報告

1) 編集委員会 (11) (絹谷清剛理事)

2) 教育・専門医審査委員会

(3) (望月輝一理事)

3) PET 核医学委員会 (12) (細野眞理事)

4) 健保委員会 (23) (伊藤健吾理事)

5) 広報委員会 (内山眞幸理事)

6) リスクマネジメント委員会

(中川原譲二理事)

7) 放射線防護委員会 (石井一成理事)

① PET用サイクロトロンに関するクリアランスおよび放射化物質の取り扱いに関する小委員会 (22) (千田道雄理事)

8) 利益相反審査委員会・倫理委員会

(藤井博史理事)

9) 学会賞選考委員会 (玉木長良理事)

10) 核医学領域における薬剤師の活動のあり方検討委員会 (13) (間賀田泰寛理事)

11) 分子イメージング戦略会議

(14) (千田道雄理事)

① 早期探索5拠点PET連絡協議会

(畑澤順理事)

12) 小児核医学検査適正施行委員会

(小泉潔理事)

13) 内用療法戦略会議 (絹谷清剛理事)

14) 将来計画・経営戦略委員会 (外山宏理事)

15) 予算委員会 (井上登美夫理事)

8. ワーキンググループ (松田博史理事)

9. 分科会活動

1) 腫瘍・免疫核医学研究会

(佐賀恒夫理事・絹谷清剛理事)

2) 日本脳神経核医学研究会 (石井一成理事)

3) 日本心臓核医学会 (近森大志郎理事)

- 4) 呼吸器核医学研究会 (内山眞幸理事)
- 5) PET 核医学分科会 (細野眞理事)
10. 国外学会等連携
- 1) 世界核医学会 (15) (絹谷清剛理事)
2022 年世界核医学会招致委員会の第 1 回会合を本理事会前に開催した。上納金や若い研究者の交通費などにあてるため今年度から年 100 万円を積み立てていく必要があると報告された。
- 2) 米国核医学会 (玉木長良理事)
- 3) ヨーロッパ核医学会 (IAEA を含む)
(千田道雄理事)
- 4) アジアオセアニア核医学会 (ARCCNM 兼務)・
日韓中核医学会 (16) (外山宏理事)
日中核医学交流運営委員会
(6) (小須田茂先生)
11. 理事長報告 (17) (井上登美夫理事長)
12. その他
- 1) 日本専門医制評価・認定機構意見交換会
(25) (井上登美夫理事長)
- 2) 平成 25 年度日本医学会分科会用語委員会について
(18) (石井一成理事)
- 3) 日本核医学専門技師認定機構からのご案内について
(19) (小泉潔理事)
- 4) 日本医学会評議員会について
(24) (伊藤健吾理事)
- 暫定の年会費は 5 万円+50 円×会員数 (学生をのぞく)

- 5) 甲府市立病院の進捗状況 (大野和子先生)
- ・甲府市事故調査委員会の調査により明らかとなった問題点が多数あった。たとえばキット製剤を使っているにもかかわらず、キット+シリンジ製剤で過剰請求していた、など。不十分な院内の調査に基づいて患者に説明したことで不信感が増長されているとのこと。
 - ・報告書における放射線影響に関する評価、今後の対応の記載に関して検討を行った。2-3 倍の量が用いられた「過剰投与」が問題ではなく、投与量が最適化されていなかったことが問題点として報告する。経過観察の対象者を単に臓器線量が 100 mGy を超えた者にせず、上乘せ 100 mGy として絞り込みを考えている。

Ⅲ. 確認事項

1. 前回議事録 (案) (17)
2. 平成 25 年度役員、委員会委員リスト (18)
3. 理事会日程
 - 第 2 回 4 月 25 日 (金) 15:00~19:00
秋葉原 UDX レセプションホール
 - 第 3 回 7~8 月 (日程未定) 12:00~16:30
日本アイソトープ協会
 - 第 4 回 11 月 第 54 回学術総会会場